



「学ぶ土台づくり」便り

第3号



宮城県では、ルルブル同様、社会総がかりで次世代を育てる幼児教育を展開するため、「学ぶ土台づくり」を進めています。

「幼児教育」って誰が行うの？

「幼児教育」というと幼稚園で行う教育をイメージする方もいるかと思いますが、「幼児教育」の**基盤は家庭**です。まずは、家庭が主体的に子どもの教育を行いましょ。家庭を支える環境として、地域社会や幼稚園・保育所等教育現場、そして行政があります。

第2期「学ぶ土台づくり」推進計画では、家庭・地域社会・教育現場・行政がそれぞれの役割を果たしながら共に取り組むことで、幼児教育の充実を目指しています。

学ぶ土台づくりミニ講座 第3弾!!

目標3 豊かな体験活動による学びの促進

幼児期は、人との関わりや遊びを中心とした体験活動を通して、道徳性や社会性、自発的な行動など、社会生活を営んでいく上での原点となるものを獲得していく大切な時期です。

思いやりの心、約束を守ること、生命や自然の大切さなどは、教えられて学習するものというより、むしろ、体験を通じて自らが気づき、実感することによって、初めて習得できるものです。また、様々な体験活動を積み重ねることにより、自ら考え、自ら行動する姿勢を身に付けることができるようになります。

生活体験や社会体験、自然体験などの多様な体験機会の充実を図るとともに、集団での遊びや活動の中で、協調したり葛藤したりする経験などを通じ、子ども自らの“気づき”を促す必要があります。

目指す子どもの姿

元気いっぱい 夢いっぱい
瞳かがやく“みやぎっ子”

～遊びや自然・人とのかかわりを通して、豊か心をはぐくむ～

- 目標1 親子間の愛着形成の促進
- 目標2 基本的生活習慣の確立
- 目標3 豊かな体験活動による学びの促進
- 目標4 幼児教育の充実のための環境づくり



平成22年に国で行った子どもの体験活動の実態に関する調査では、「子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やりがいや生きがいを持っている」という結果が出ています。

「学ぶ土台づくり」普及啓発事業 紹介

「親になるための教育推進事業」

県では、平成23年度から高校生を対象とした「親になるための教育推進事業」を行っています。この事業は、親育ちを支援する環境づくりの取組の1つとして、親になる前の世代の高校生を対象に、親育ち・子育て等に関する講話や講演会、保育体験、母親学級への参加などを通して、家庭をもち、子を産み、育てるということの意義を適切に理解させ、将来自らが親になったときに親としてどのように成長していくべきかについて意識啓発を図ることを目的としています。

これまでに、延べ43校がこの事業に取り組んでいます。保育体験や乳幼児との交流を通して、初めて赤ちゃんや幼児と接した生徒もあり、子育てのイメージが不安から期待に変化した等の感想が見られます。また、講話から命の大切さや親への感謝を実感した感想も多く見られます。

次年度も新たな実施校を募り、親になるための意識啓発を行っていく予定です。



妊婦体験をする高校生

【取組の様子】

幼稚園児とお散歩しながら秋探し